

第5回 福知山踊振興会 12名参加
平成30年10月12日 17:30~18:30
於：市民交流プラザふくちやま 3階 会議室3-3

主な話し合いの内容（★＝団体、◎＝市長）

★踊振興会の活動紹介について。

田村会長より踊振興会の活動や概略、現状について説明。

- ・現在の会員数は90名。踊り・唄・三味線・尺八・太鼓・スタッフと各部署に分かれて、活動している。
- ・踊振興会は38年前に福知山踊りを継承する人材の育成を目的に立ち上げられた。以来ドッコイセフェスティバルを38年連続で実施している。
- ・平成2年には国民文化祭に京都府代表として出場し、平成5年にはドイツで初の海外公演をさせてもらった。また、平成9年に京都府より功労団体として、昨年には協力団体として表彰いただいた。
- ・後継者の育成に力を入れており、出前踊教室を実施している。昨年度実績は46回、延べ1406人であった。
- ・以前マスコミに「福知山踊りを踊り続けると脳の活性化につながる」という話を取り上げてもらった。「ドッコイセで脳活」ということで、市と協力して行っている。今年度は約70名の高齢者の方に1年間にわたって週1回踊るという企画に参加していただいている。

★大河ドラマの制作に関連した取り組みとその方向性について

福知山踊りと光秀公は切っても切れないつながりがある。この踊振興会でも大河ドラマに向けていろいろなことを考えているところである。しかし、まだ市民の方に大河ドラマが2年後にくるということが全然普及していないように感じる。

◎NHK大河ドラマ誘致推進協議会をつくって活動を行ってきた。その協議会で「麒麟がくる」のPRを行うことが決まっており、今後ロゴマークを作る予定である。また、市としても推進本部をつくり、明智光秀と福知山をうまく結びつけて市のPRをしていきたいと考えている。現在駅の構内に看板、JRの福知山支社に吊り下げ看板、市民交流プラザや市庁舎に垂れ幕を設置している。

◎事業を進めていく中で、行政だけが走るのではなく、市民の皆さんも一緒になって取り組んでいただくことが大事だと考えている。今後、事業の開始時期や予算組みなどスケジュールがタイトになっている。協議会やワーキンググループなどご無理をお願いすることもあると思うが、よろしく願いたい。

★市民から盛り上げていくことが必要だと思う。そのためには、各団体が自分たちの活動の中でできることを考えて案を出していただくことが必要だと思う。市の協力も必要になる。よろしく願いたい。

◎まずは、お城の補修をしなければならない。床や壁など作業に入りはじめたところである。上り坂についても直していきたいと考えている。

★早く大河ドラマが市民レベルに落ち着くようにしてほしい。先日講演会で「福知山市はドラマに映らない」という話を聞いた。

◎ドラマに出るかどうかはわからないが、福知山市にとっては、明智光秀は自分たちのまちづくりをし、はじめに治水などに取り組んでくれた人である。福知山市民の思いと光秀との関連性をきちんと外に発信し、興味を持ち訪れてもらえるようにしないとイケないと考えている。

★島原市との交流、関係等について

姉妹都市である島原市と今後どのようなことに取り組もうと考えているのか？

◎島原市は私が市長になってから一番深いご縁をいただいてきたまちだと思っている。35年という長い期間の中で、行政主体ではなく市民レベルでの交流が既に生まれていると思っている。より育んでいくための取り組みを進めていきたいと考えている。

★島原市との姉妹都市提携のきっかけは、青年会議所が姉妹 JC だったことである。市と青年会議所が提携を行ったあと、いろんな団体が連携してきたといういきさつがある。

◎観光友好都市である小山町とは子どもたちとの交流を行っている。福知山市の子どもたちが富士山登山に呼んでもらったり、小山町の子どもたちに大江山登山に来てもらっている。島原市ともそういった交流ができれば、また違った側面での交流が生まれるかなと思っている。

★踊振興会の本分である踊りを中心とした伝統文化の継承について

◎私が就任した当初から、文化やスポーツに関わる総合的なものの考え方を決めたものはないと聞いている。そのため、市としてハード的な施設や福知山音頭や踊りの位置づけを考えていこうと話を進めているところである。また、その担い手の確保や参加者の拡大についても市として取り組んでいく方向で議論をしている。

◎それぞれ施設や団体から要望をいただいているが、もう少しお時間をいただきたい。また、詳細については、皆さんと一緒に考えさせていただくことになるかもしれないが、その際はご協力をいただきたい。

